

面積の考え方について（案）

＜基本的な考え方＞

- ◆休館前のスポーツ博物館は、約 2,000 m²であった。
- ◆スポーツ博物館の新たなコンセプト、事業内容に相応したエリア構成を検討する。
- ◆「資料収集の基本的な考え方と収蔵資料の整理について」を踏まえ、現在収蔵している資料の整理と分散管理の可能性、今後の収集による資料の増加を想定して面積を検討する。
- ◆設置場所によっては確保できる面積が変動することが考えられるため、一定程度の幅をもって面積を検討するが、場合によっては全機能を一か所にまとめられない可能性がある。

＜各機能別エリアの考え方＞

（収集・保存エリア）

- ・博物館としての基盤となる部分のため、収蔵資料の増加にもある程度対応できるスペースを確保することも検討。

（展示公開エリア）

- ・休館前のスポーツ博物館は、常設展示と図書閲覧室のみであった。映像展示、特別展・企画展などの実施を想定し、相応の広さを持ったスペースや来館者の滞留・動線面積を十分確保することも検討。

（教育普及・交流エリア）

- ・展示関連イベントや講演会等の開催、総合的な学習や修学旅行生などの団体客の学びの場等として様々な用途に活用できる多目的スペースやレストラン等を確保することも検討。
- ・ボランティア等の人材育成事業には、来館時に滞在・活動するスペースが必要となる。

（調査研究エリア）

- ・セキュリティや作業効率等の観点から、資料の閲覧を希望する来訪者への対応や研究協力者の作業のための専用スペースを確保することも検討。

[参考：休館前のスポーツ博物館及び現在の綾瀬倉庫の面積]

	休館前の スポーツ博物館	現在 (綾瀬収蔵庫)
収集・保存エリア	930	1,450
博物館資料収蔵庫、図書資料収蔵庫など	(43%)	(85%)
展示公開エリア（図書室含む）	1,050	85
常設展示室、企画展示室、体験コーナー、 図書閲覧室など	(48%) ※体験コーナーはなし	(5%) ※図書閲覧室のみ
調査研究エリア	0	—
調査研究室		
教育普及・交流エリア	0	—
多目的スペース、ボランティア室など		
共用エリア	25	—
エントランスホール、ミュージアムショップ、 レストランなど	(1%) ※エントランスのみ	
その他	165	165
事務室、会議室、倉庫、機械室など	(8%)	(10%)
合計	2,170	1,700